
震える、二つの肩

江角 稚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

震える、二つの肩

【Nコード】

N3186Z

【作者名】

江角 稚

【あらすじ】

とある女の子と、

とある青年のお話。

・・・あながち、間違いではないと思います。

プロローグ

恐怖。

目の前に広がる光景は、
多分、一言で表すのならそんな感じ。

私は彼の肩越しに、
”恐怖”を見ていた。

その肩は、
私を守ろうと必死だった。

私はただ、
怯え、震えていた。

いつも通りの帰り道。
いつも通りの公園で、
いつも通りに友達と過ごし、
いつも通りにバイバイして。

そして、
いつもと違う出来事に

遭遇した。

四人。

急に、

腕を

掴

ま

れ

て

…連れていかれそうになった。

そこに通り掛かったのは、

二十歳前後の

青年だった。

そして、今に到る。

私を助けようとした彼は、
今、私を庇うようにして

私の前に立ちはだかっている。

ただ、

彼は突き飛ばされて

私達と一緒に尻餅をついた。

…私に至つては、
壁に頭を強かに打った。
したた

そして、
私が彼の肩越しに
見ていたものは。

四人の男と、

四つの刃物。

銀色に、怪しく光るそれは、
私を怯えさせるには
十分過ぎる代物だった。

女の子の視点

私達の方に、
男達が寄つて来る。

その一人が、
走り出した。

そして、
ナイフを
振り

上げて

そのまま

下ろされ

た。

…けど、
誰も怪我をしなかった。

男は足元不注意で、
手前の石に躓いて転んでいた。

それは見事に
美しいコケ方で、
芸人さんがやったら
大ウケする程。

しかし、
笑える状態にある程
コメディ―ちつくな雰囲気ではない。

青年は、
顔面からアスファルトに落ちて
気絶している男から
ナイフを奪った。

そして、
男に刃先を突き付けて
こう言った。

”彼女から離れろ”と。

青年は男を盾に、
私を助けようとしていた。

男達は動かなかった。
いや、動けなかった。

睨み合う、緊迫の時間。

しばらく経った頃、
青年が盾にしていた男は目を覚まし、
彼の腕を振り払おうと
暴れ出した。

いきなり、
大量の鮮血が
噴き出した。

よく分からないが、
どうやら男は
自分の首元のナイフに気付かないまま
もがいたらしい。

スパツ、と
嫌な音が響き渡った。

男達は逃げ出した。

私は、その
一連の出来事を
震える彼の肩越しに見ていた。
彼よりもずっと、
震えながら。

青年は両手を血に染めたまま、
私の方を振り返る。

そして。

青年は優しく、
そして哀しく、
微笑んだ。

” 怖いものを見せてしまったね。すまない ”

彼は、その一言だけを
私に残して

この場を去りました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3186z/>

震える、二つの肩

2011年12月12日01時57分発行